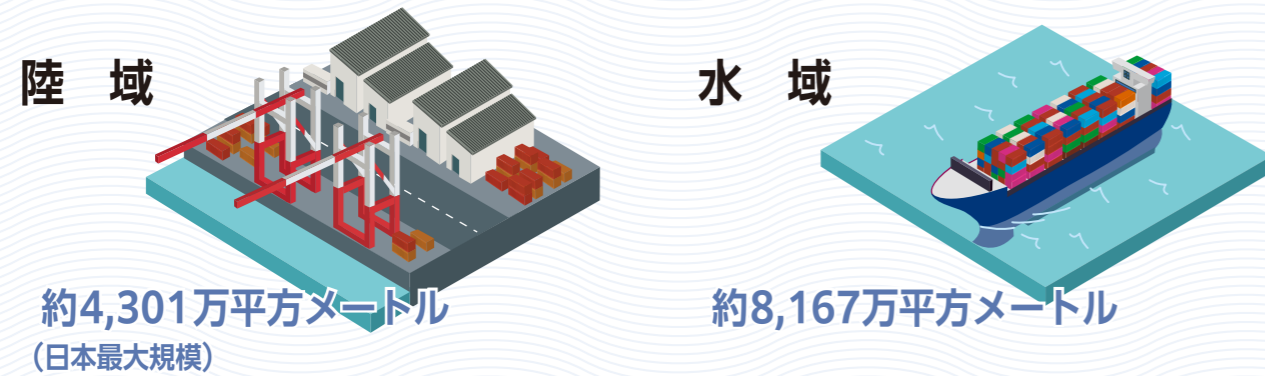


規模・実力(令和6年実績)

3つの政策

日本に約1,000港存在する港。その中で、日本最大規模である名古屋港の実力についてご紹介します。



**自動車輸出台数**  
46年連続

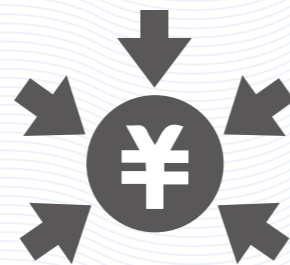
中部圏はものづくり産業が非常に盛んです。その代表が自動車です。



**総取扱貨物量**  
23年連続



**貿易黒字額**  
27年連続



日本列島太平洋岸のほぼ中央に位置する名古屋港。中部地域の海の玄関口として、そのものづくりと暮らしを支えてきました。2024年(令和6年)の総取扱貨物量は、約1億5,700万トンで日本一位の見込みです。貿易額についても約23兆7,373億円と、日本全体の貿易額の約219兆5,151億円の約11%を占めています。

01

国際競争力及び産業競争力の強化と港湾物流の環境変化に対応した港づくり

名古屋港の背後圏には、自動車、航空宇宙、工作機械、鉄鋼など、国内有数のものづくり産業が集積しています。その中で名古屋港は、コンテナ貨物のみならず、バルク貨物や完成自動車を取り扱う総合的な港湾として、ものづくり産業を物流面で支え、我が国の経済と産業の成長を牽引しています。



ガントリークレーン



コンテナターミナル

02

港湾の安全確保と大規模災害にも対応できる地域防災を目指した港づくり

背後地に大都市圏を抱える名古屋港には、台風・地震などの起こりうる災害から住民を守るという役割があります。名古屋港管理組合では、高潮・津波・地震の災害から背後地の人々の命・生活・産業を守るため、防災施設の整備・強化を進めるとともに、24時間365日迅速に対応できる体制を整えるなど、ハード・ソフトの両面から防災・減災対策の確実な実施に取り組んでいます。



高潮防波堤



防潮扉の閉鎖訓練

03

環境にやさしく、夢・うるおい・にぎわいのある親しまれる港づくり

名古屋港は人々に大切な憩いの場を提供するとともに、歴史・文化の発信地でもあります。良好な港湾環境の形成に向けて、環境施策に取り組んでいくとともに、人々と港の距離を縮める親しまれる港を目指し、にぎわいの創出に努めています。



名古屋港水族館



帆船の寄港